



医学研究科生殖内分泌・腫瘍学分野が 江別市，北海道対がん協会と連携協定を締結

概要：

子宮頸がん検診受診率向上のために、時間が取れない、あるいは近くに検診施設が無いなどの理由により検診を受診していない女性を対象にして、柔らかいブラシを用いて自分で検査のための検体を採取し、それを検査センターへ送付して子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）の検査を行う「自己採取 HPV 検査」が有用です。この自己採取 HPV 検査を北海道で導入することの有用性を、江別市をモデル地区として、江別市と北海道大学大学院医学研究科生殖内分泌・腫瘍学分野及び公益財団法人北海道対がん協会が共同研究事業として実施します。

協定締結に至った経緯：

細胞診を用いた子宮頸がん検診は、子宮頸がんの予防・早期発見に明らかに有用であることが科学的に示されています。しかし我が国では、子宮頸がん検診受診率が先進国のなかで最も低いグループに入っており、若年女性の子宮頸がん罹患数と死亡数が増加しています。子宮頸がん検診未受診者の受診率向上に自己採取 HPV 検査が有効であることが世界的に認められてきており、北海道大学大学院医学研究科生殖内分泌・腫瘍学分野が江別市と北海道対がん協会に呼びかけて、共同研究事業として江別市民を対象に「子宮頸がん自己採取 HPV 検査」を実施することとなりました。

連携・協力の内容：

- ①初めて子宮頸がん検診の対象となる 20 歳の女性に対するがん検診の意識付けを行う。
- ②子宮頸がん検診未受診者の受診率向上のために、3 者が事務作業，検査，事業全般の指導助言，研究結果の解析・公表などを分担して協力する。

協定の有効期限：

平成 28 年 5 月 2 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

お問い合わせ先

所属・職・氏名：北海道大学大学院医学研究科 特任教授 櫻木 範明（さくらぎ のりあき）
TEL：011-706-5938 FAX：011-706-7711 E-mail：sakuragi@med.hokudai.ac.jp